



喜多埜

関西のカシワ

歯神社例祭のご案内

来月、六月四日は当神社の飛地（とびち）末社である歯神社の例祭日です。この歯神社は小さな祠（ほこら）のお社で、繁華街の中心、角田町において唯一戦前から残る建物として、梅田の地に今も御鎮座されておられます。

御由緒は江戸時代に、淀川の氾濫があった時に遡り、この歯神社の御神体である巨石がその洪水の流れを歯止めし、水没から梅田の街を守った事から歯止めの神様として慕われた事に由来します。後世、音韻が通じるのを以って「歯痛止めの神様」とも慕われ、更に時代が下がるにつれ、歯のご利益あらたかなるを遠近に知られるようになり、歯の神様「歯神社」として、全国の歯に関わる方々から崇敬されています。特に本年は、放火の難に遭い、社殿大修理を終えてから八(歯)年目という式年にあたり、佳節ともいえる年です。

当日は午前十一時より歯神社前にて神事があり、氏子崇敬者をはじめ参列者皆様の歯の健康と、歯ブラシへの感謝の心を御祈願いたします。終了後（十一時十五分頃）に歯ブラシの授与がございます。尚、歯ブラシの授与数は先着百名さま迄とさせて頂いております。皆様のお参りをお待ち申し上げております。

名称 歯神社例祭（通称 歯ブラシ感謝祭）

日時 平成二十一年六月四日 午前十一時

場所 大阪市北区角田町二番八号 歯神社

（ユニクロ梅田店 入口横）

備考 歯ブラシ授与は先着百名迄。

お問い合わせ 網敷天神社 御旅所まで

カシワは新芽が出るまで古い葉っぱが落ちない事から「武運長久・子孫繁栄」の縁起物として特に武家に尊ばれ、五月五日の端午の節句では餅をカシワの葉で包んだ「柏餅」が子供の顔をほころばせます。

しかし、スーパーなどでみかけ手のひらのような形をしたカシワの葉を用いた柏餅が作られたのは徳川九代將軍家重の頃といわれ、関東を中心とした風習でした。関西での端午の節句では主に「ちまき」が厄災除けの縁起物として尊ばれていましたので、現代のような柏餅は近代まで見られませんでした。

ですが、関西地方の特に大阪や京都では古代、神事の折にお供え物の搔敷(敷物)としてアカメガシワという植物の葉を器代わりに使っていたところもあり(現在も京都・北野天満宮では青柏祭などで用いられている)、関西ではアカメガシワの葉をカシワと呼んでいました。ですので、近世まで関西でいう柏餅はアカメガシワで包んだものを指したようです。

ちなみに、赤身の鳥肉を関西では「カシワ」と呼びますが、これはアカメガシワの新芽の色が赤色をしているところから付いた呼び名であるようです。赤いカシワは関西では縁起物として尊ばれていた風情が思い浮かびます。

神社携帯サイトのQRコード

ドコモ、ソフトバンク、
au、モバイルPC 対応



編著 網敷天神社 禰宜(神主)

白江 秀知

